

# 恩納村 IoT 推進協議会について

No.5



【経済産業部】

沖縄では、地球温暖化の影響とされるサンゴの白化現象が大きな問題となっています。恩納村では、昨年7月に「サンゴの村」宣言を行い、恩納村漁協を中心にサンゴ礁保全再生活動に取り組んでいます。さらに、恩納村は、今年7月に「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定され、持続可能な観光施策に取り組むことにしています。

農業分野では、沖縄気象台の気象予測データ等を基に農業・水産業支援アプリケーション開発を行い、農家および漁業者の収益性向上に貢献します。

今年9月6日の第5弾選定では、恩納村を含む8地域が選定され、平成28年以降で、合計101地域（沖縄では沖縄県、沖縄市に続く3件目）が選定されています。

地域プロジェクトへのメンター派遣による支援を行っています。

近年、IoT、ビッグデータ、AI等によって世界的に産業や社会の在り方が大きく変革されつつあります。このよう中、経済産業省・（独）情報処理推進機構（IPA）では、地域におけるIoTプロジェクト創出のための取組を「地方版IoT推進ラボ」として選定し、メルマガやラボイベント等の広報、地域プロジェクトへのメンター派遣による支援を行っています。

## 1. 地方版IoT推進ラボ選定

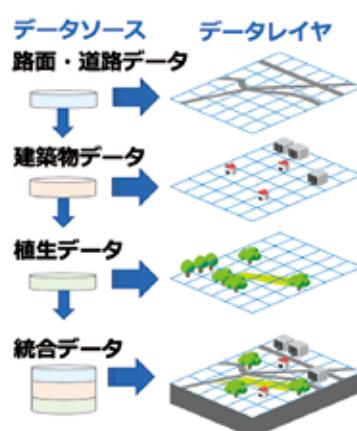


恩納村IoT推進協議会（以下、「協議会」という）は、IoT、ドローン等から得られる地域のあらゆるデータを集め、人流や地理情報等の空間情報を分析し、村民に共有することにより、「問題解決のために協力しあう社会」、「課題解決に向けて賢くなつていく社会」実現を目指します。

具体的には、観光分野では、観光客の誘導によるサンゴ環境の保全、ダイビングの安全管理が可能となるシステム構築や、日々のサンゴ礁の画像をリゾートホテルへ提供するなど、恩納村のSDGsの取組と連携した活動を行います。

また、協議会参加団体では、沖縄型産業中核人材育成事業（内閣府）により、地理空間ビッグデータ利活用による新規商材開発のためのエンジニア人材育成にも積極的に取り組んでいます。これら協議会活動は、様々な事業展開、企業連携の可能性があることから、恩納村の観光産業等の活性化のみならず、沖縄県全域への経済波及効果が期待できます。

## 地理情報ビッグデータ



## 観光情報ビッグデータ

- セイフティレコーダー（運転ログ）  
▶運転者の状況
- FourSquare  
▶位置情報共有SNSからの位置情報
- Twitter  
▶#地名 #店舗名などのタグ情報  
▶StreamingAPIなどの行動解析
- Facebook (Instagram)  
▶チェックイン情報 etc..